

立志だより



立志・自主・勤勉

与那原町立与那原中学校
校長 當間 保

教育目標 ○創意工夫して、よく学ぶ生徒

○豊かな心を持ち、思いやりのある生徒

○進んで自らを鍛え、最後までやり遂げる生徒

78期生「卒業式」247名、煌めく世界への大きな一歩!

3月7日(土)、照屋 勉与那原町長、垣花英正教育長をはじめとする多くのご来賓や保護者の皆様に見守られ、第78回卒業式を挙行いたしました。

式典は終始、厳かで温かな空気に包まれました。卒業生一人一人が、舞台上での証書授与に心を込めた丁寧な所作と深い一礼で応える姿が、深く心に残りました。

卒業生のうた「桜散る頃 ~僕たちのLast Song~」では、三年間を共にした生徒と先生方の胸に熱い思いが込み上げ、会場全体が深い感動に満たされました。学び舎での思い出を胸に、卒業生たちはそれぞれの輝かしい未来へと力強く旅立ちました。

◆当たり前前の日常への感謝と、未来への決意



校長式辞では、15年間という長い歳月を家族や周囲の方々に大切に守り育てられて今日があることへの感謝を忘れないでほしいという事と、予測困難な社会へ踏み出す卒業生に対し、「逆境の中にこそ真の成長がある」ことも伝えました。苦しい時や困難を乗り越える経験こそが人間としての大きな糧となり、日々の当たり前前の積み重ねや小さな挑戦が、やがて「困難を乗り越える力」と「自信」に繋がります。

「命の歌」にあるように、ささやかな日々の中にある、かけがえのない喜びを大切に、煌めく世界へ一歩一歩、歩みを進めていくことを期待しています。



■「先輩方に最高の舞台を」— 後輩たちが込めた感謝の心



卒業式前日、会場では1.2年生が熱心に準備に励む姿がありました。

紅白幕を真っ直ぐに張り、椅子を寸分違わぬよう整列させる。「先輩方に最高の舞台を！」という後輩たちの真心が、当日の厳粛な会場を作り上げました。

また吹奏楽部は、堂々とした校歌の演奏で卒業生の入場を先導。



式を締めくくる退場シーンでは、「3月9日」をはじめとする卒業にちなんだ楽曲を披露しました。哀愁溢れるメロディーで先輩方を温かく包み込み、78期生の晴れの舞台に華を添えてくれた。1.2年生の思いも伝わる卒業式でした。皆さん本当にありがとうございました。

■ 感謝！保護者・地域の皆様へ—

お子様のご卒業、誠にありがとうございます。三年間、本校の教育活動を温かく支えてくださった保護者の皆様、そして地域の皆様に心より感謝申し上げます。

思春期を迎え、心身ともに不安定な時期を過ごすお子様を見て、心配な時もあったかと思いますが、本日、お子様の晴れの姿に感慨もひとしおのことと思います。子育てという旅も、いよいよ最終局面になります。お子様と生活する何気ない日常を、どうぞこれからも大切にお過ごしください。

「与那原の宝」である247名が、それぞれの場所で自分らしく「百花繚乱」の如く花開くことを、教職員一同、心より願っております。



◆ 来週3月23日(月)は、いよいよ今年度の締めくくり「修了式・離任式」です。